

おやじの会と学校が主体となつて行う地域活性化

1 はじめに

以前より、喫緊の課題として原地区コミュニティ推進協議会等で地域活性化について協議がなされていたが、コロナ禍により地域の活動そのものが衰退してきている。今年度は、「しない選択をするのではなく、できることを考え行っていく」ことを共通理解し、保護者や卒業生がメンバーとして成り立っているおやじの会と原地区コミュニティ推進協議会の所属団体とともに、学校と連携して様々取組を実施していくことにした。

2 目的 コロナ禍でも工夫してできる活動を推進する。

3 活動の実際

ア コロナ禍における環境整備の改善

・プール清掃の実施

6月の水泳学習に向け、例年では6年生でプール清掃をしていた。しかし、昨年度コロナ禍で水泳学習が中止になったことでプール清掃も行っていないため、例年以上に汚れていた。児童や教職員の負担軽減もあり、おやじの会とPTAがプール清掃に参加することになった。環境整備の取組の新設が実現した。



・運動場整備の実施

長年の課題であった（予算がないため）運動場整備について、おやじの会と地域体育振興会、PTAで協議の場がもたれた。地域やスポ少関係も運動場を使うため、三者が協力して毎年整備をしていくことが決定した。

・校内草刈り作業の実施

奉仕活動として毎年PTA活動が行われているが、コロナ禍により2年連続中止となった。そのため、おやじの会と根っここの会（地域コミュニティ所属団体）が中心となり有志を募り、事前に草刈り作業を行っていただいた。9月の地域コミュニティによる運動場の環境整備前に実施していただいたおかげで、除草範囲の広い本校ではあるが、短時間で作業を終了することができた。



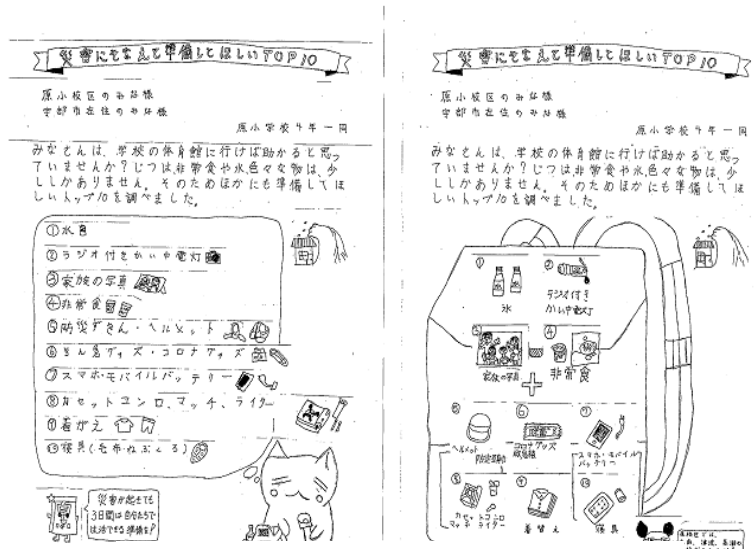
イ コロナ禍における地域とともにある行事や各種取組

・地域防災と4年生社会科における防災学習

4年生社会科に新たに導入された防災学習と、地域防災がタイアップした取組を行った。避難所として指定されている本校で、実際にどのような避難所運営がされているか調べることを通して、防災意識を高めることにつながった。

地域防災担当の発案で、山口県が主催する避難物資搬送訓練に原地区が参加す

るのに合わせて児童と地域住民が段ボールベットづくりの体験を行うことになった。当日は、地域住民だけでなく児童の保護者も参観した。また、学習のまとめとして、家庭で災害に備えるための啓発リーフレットを作成し全戸配布をするなど、学校が主体となって地域へ関わっていくことができた。



↑ 全戸配布したチラシ

ウ コロナ禍におけるPTAとおやじの会が連携した取組

- ・ 体育発表会DVD上映会の実施

コロナ禍により、予定していた体育参観日の外部参観が中止となり、その代替として全校体育発表会をビデオ撮影し、地域住民に見ていただけるよう上映会を開くことにした。参観日に合わせて体育館で上映会を実施し、当日、PTAとおやじの会が運営を行った。コロナ禍で地域住民が学校へ来校する機会がなくなっていたが、上映会で児童の頑張る姿を見ていただくことができた。

- ・ 「原小リベンジャーズ」の実施

原小学校の恒例行事として地域とPTAが毎年実施する「原小まつり」は、今年度もコロナ禍で中止となった。2年連続の中止となったため、児童のために思い出に残る楽しめるものを実施したいと、PTAとおやじの会が運動場でのクイズ大会を開催した。当日は多くの児童が参加して楽しんだとともに、開催に関わった保護者の連携意識が高まった。



4 おわりに

今年度もコロナ禍により様々な活動が制限される中で、「できる方法を考える」ことに主体をおき、学校と各種団体が連携してできるだけ開催する方向で取り組むことができた。昨年度中止したものも、工夫をすることで開催にこぎつけることができた。

しかし、地域の中にはコロナ禍の状況での実施に賛否両論があり、大きく前進したとまではいえない面がある。来年度は、更に工夫することによって新たな地域活性化の取組を模索していきたい。